

みくに



のびのびと 豊島の棚田にて

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

「食べることの意味」

副施設長 高橋 香織

秋も深まり、食欲が旺盛になる季節がやってきました。みくに園でも、栗ご飯やイチジクなど秋の食べ物が給食に並びます。私自身、食べることが大好きで、豊島の新鮮な野菜や魚、季節の果物などおいしい物には目がありません。自分の食い意地を利用者に重ね、「何が食べたいのかな」と考えることもある一方で、施設職員として、利用者の食事中、誤嚥や喉に食べ物が詰まってしまったケースも経験しているので、食べることへのリスクも感じています。

食べることを考えるとき、ある高齢の女性利用者の方を思い出します。その方は癌で余命を宣告され、施設での生活は難しく緩和ケアのため入院しました。ある日、病院からその方が食事をとらないと連絡があり、お見舞いに行きました。

病室を覗き込むと私の顔を見て笑いました。「どうしたの？ご飯食べれんの？食べたいものある？」と聞くと黙ってうつむくだけでした。食事の時間になり、一緒に食堂へ向かいましたが、食堂の席に座っても、一口も手を付けません。知らない人の中で会話もなく窓を見ながら「こんなん、食べれん」とポツリ。準備されていた食事はペースト状のものでした。結局、スプーンも持たず、食堂から出て行きました。帰り際、看護師さんにそのことを伝え「形のあるもの」をお願いしましたが、やはり、病状のことを考えるとこの形が最善でした。

その方は、歯は殆どありませんでしたが、イカの天ぷらが好きでハサミでカットするだけで食べることができました。みんなと話をしながら楽しそうに食べている顔を思い浮かべながら、その方の気持ちが痛いほどわかり、葛藤したことを今でも鮮明に覚えています。今考えると、みんなと一緒に病院食でも食べることができたのかも知れません。

食べることは生命を維持するために必要です。しかし、必要な栄養素をとっているだけではさみしいです。目で楽しみ、香りを楽しみ、そしてみんなで食べる楽しみ。それだけで心が満たされます。食べることは「人生を豊かにする」そんな力があるのではないかでしょうか。

遠足で食べたおにぎりの塩加減、家族で囲む食卓、風邪を引いたときのおかゆ、思い出の中にも食べることが生きています。これから先、利用者の人生に関わる一員として、「食べることの意味」を考え、一食一食を大切に楽しい食事にしていきたいと思います。

豊島の秋を満喫

みくに園では毎年秋になると、島外に遠足に出かけています。しかし、昨年から新型コロナウイルスの影響を受け、島外への外出は控えています。そこで今年の1番館の遠足は豊島の唐櫃岡地区にある棚田へと出かけました。傾斜地に一面に広がる美しい棚田とどこまでも続く青空と真っ白な雲。そして、遮るものがない海までの壮観な眺めに思わず両手を伸ばして深呼吸をしました。お菓子とジュースでひと休みして、短い時間でしたが楽しいひと時を過ごすことができました。

遠足のもう一つの楽しみはおいしいご馳走。2段重ねのお弁当をとり、みくに園で食べました。

(川下 記)



3番館の遠足は、豊島の家浦硯地区にある海のレストランへ外食に行きました。10月だというのに汗ばむような暖かな陽気の中、久しぶりの外出にワクワクしながら、みんなで歩いて海のレストランへ向かいました。テラス席に座ると、目の前にはどこまでも広がる青い空と青い海。その青にピンク色のオレンジジュースが映え「ここは、まるで地中海？」と錯覚するぐらいの景色がきれいでました。石釜で焼いた出来立て熱々のピザを「美味しい！」と笑顔で頬張り、ジュースをおかわりする人もいました。心地よい風が吹く中、素晴らしい瀬戸内海の景色を堪能しながら、食事を楽しむ事ができました。

(古川 記)



世間では、少しずつですが新型コロナウイルスの感染者も減少傾向にあります。来年は制限など気にせず、行きたい場所に行き、みんなで思いっきり笑い、思いっきり食べることができる、そんな遠足になることを願っています。

芝桜みくに公園事業

2016年から始めた芝桜みくに公園も今年で5年目になります。毎年5月になると一面に赤紫やピンクの花のじゅうたんが広がり、道行く人の目に留まります。

この公園は、故高田久理事長が、豊島へ恩返しがしたいという思いから、豊島の社会福祉協議会や老人会の協力を得て始めた事業です。花が咲き誇るのは、ほんの数週間ですが、この花を咲かせるために、今年の夏も暑い中、水やりや草取り、肥料をまいての土壤づくりなど手入れをしていただきました。一年を通して、たくさんの方々が丹精込めて育ててくださったおかげで、また、来年の春、一面の花のじゅうたんを豊島の方々や利用者の方々に見ていただくことが楽しみです。そして、芝桜は故理事長の豊島への思いそのものであり、私たちへのメッセージでもあると感じています。豊島の中で年々芝桜の苗が育っていくように、私たちも成長し、そして豊島の方々への感謝を忘れずにみくに園を後世に継なぐこと、満開の花にはそんな故理事長の思いが詰まっているように感じます。

毎年、途切れることなく花が咲くのも、いつも芝桜みくに公園のお世話をしてくれていている、社会福祉協議会のみなさまをはじめ、老人会や地域のみなさまのおかげだと、感謝しております。

これからもよろしくお願ひいたします。

(高橋 記)



感染症認定看護師派遣事業研修

8月、香川総合リハビリテーションセンター感染管理認定看護師の門田弘光氏による新型コロナウイルス感染症対策のための実地指導が行われました。実際に門田氏と職員で施設内の構造や現在行っている感染対策、備品などを見て回ってから、質疑応答で職員の疑問を投げかけました。参加した職員の報告をいくつか紹介します。

先生から「チームとして強度を高めましょう。」と教えていただいた。みくに園内のみがチームではなく、他の支援機関も含めて「広義でのチーム」なのだと学んだ。

ワクチンを接種して少し安心していた部分がある。今回の研修を受けて、改めてまだ戦いは続いており、見えない敵を相手にみんなで力を合わせて立ち向かっていかなければならぬと強く思った。

職員が支援する際、風上から支援することで感染しにくい事など「なるほど！」と考えさせられることばかりだった。



長きにわたる感染対策の慣れや疲れが出てきていたところであつたため、今回の助言等は改めて今までの知識や園内での対策の見直しに役立てることができた。

あくにえのアート活動

タイトル文字：繁朋宏

芸術の秋！皆さんそれぞれの表現したいことを自由にかたちにしながら、楽しく活動しています。
毎週生み出されるたくさんの作品の中から、今回は女性メンバーの作品をご紹介します。

(吉野 記)



三枝美津子さん

「部屋で使わないままになっている糸を活かしたい」ということで、いつもよりも細めの糸でお花の模様を刺繡し、小さなカバンにしました。



喜多キヨ子さん

植物の模様がプリントされた大判の布に細かい刺繡をほどこしていく、制作中の大作です。喜多さんならではの色選びでアレンジを楽しんでいます。



樋口サチエさん

フェルトの布に自由な線のステッチをほどこしました。喜多さんがプレゼントしてくれた刺繡作品をスタッフが縫い付け、世界に一つだけのバッグが完成！



岡本みどりさん

カタログの中から選んだ食品や雑貨の写真を丁寧に切り抜き、みどりさんの感性で画用紙の画面に貼り付けて行きます。大胆なレイアウトで、毎回楽しい作品が出来上がります。

今年も
公民館まつりに
出展します！



今年も、豊島公民館で11月15日（月）～19日（金）の日程で開催される公民館まつりに、出展します！島の皆さんに私たちの日頃の活動を知っていただき、作品を見ていただくことのできる貴重な機会なので、しっかり準備して良い展示にしたいと思います。

ハロウィンのお化けたち

今年もお化けたちがやってきました。今年は、かわいいかぼちゃのお化け、よく笑うミイラ男、背の高いドラキュラの3人トリオです。一人ずつお菓子を手渡す姿はなんともほほえましく、ちっとも怖くありません。こんなかわいいお化けたちなら毎日でもお菓子を持って現れて欲しいですね。



移動パン屋さん 選ぶ楽しみ

みくに園に月に1度移動パン屋さんがやってきます。昼休みが終わる頃、パン屋さんの音楽が聞こえ始めると利用者のみなさんは気が気ではありません。前日から何にしようか考えに考えぬいたパンでも、いざ、たくさんのパンを目の前にすると、前日の決心が揺らいできます。毎回「サンドウィッチ」「焼きそばパン」と決心が固い利用者もいます。月に1度ですが、利用者はこの日を待ち遠しく思っています。



編集後記

コロナウイルス感染症の感染拡大によって出された緊急事態宣言・まん延防止措置も解除され、みくに園では今年やっと遠足に行くことができました。視界いっぱいに広がる蒼い海、美しい棚田の風景、おいしいご飯やおやつ、そして、何よりも利用者の笑顔。たくさんの行事が中止になり我慢の日々が続いていましたが、豊島の自然の力強さ、包容力がそんな鬱屈な気分も吹き飛ばしてくれました。みくに園が豊島に在ることの有難さを感じずにはいられない、そんな秋の遠足でした。

*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920